

昭和41年3月卒業

第36期

昭和39年秋季～40年夏季



チーム紹介

昨年を上回るチーム力

昨年を上回るチーム力で充実している。速球の柿崎投手が肩を故障したのは痛いが、山谷、大沢、熊谷（純）らの継投で大会を乗り切る構想だ。熊谷は1年生。昨年の全県少年野球の優勝投手。春に青森一高を4対0で完封してから自信をつけたが外角にスライドする球が決まると各校もかなり手こずるだろう。

昨年のレギュラー4人が残っているのが心強く、田山主将はじめ柴田、森らが打線の中心となるが現在は調整期なのでやや低調。しかし夏の大会までにはトップコンディションに持っていくという。

守備はとりたててアナもない。太田監督は「心配なのは精神面で、これさえ充実すればかなりやれるだろう」といっている。

◎昭和39年

・秋季県北

能代6-0大館鳳鳴

能代2-1大館

能代2-3花岡工

◎昭和40年

・春季県北

能代2-3大館鳳鳴

・能代選抜

能代1-4金足農

・全県大会

能代3-2秋田南

能代5-3大曲東

能代1-2金足農

能代	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
金農	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2

（能代）柿崎・熊谷純一小林

（金足農）三浦一島崎

〈部長〉小笠原恒太郎

〈監督〉太田 久

〈部員〉3年生

○田山 一治

森 明生

山谷 清人

佐藤 順

小笠原(熊谷)忠澄 小林 正芳

柴田 武剛

私の高校野球

小笠原(熊谷)忠澄

そもそも私が野球に興味を持ちだしたのは、小学4、5年ころ仲間と遊びだしたのが始まりだったと記憶しております。

その後野球部といわれる部活を、小学校、中学、高校、大学で10年間ほど経験させていただきました。特に高校時代は、「目指せ甲子園」をスローガンに、日夜鋭意努力し、1年生のときは先輩の皆様の血のにじむ努力が報われ、開校以来初快挙となった第1回目甲子園出場、われわれも大阪まで連れてってもらい、わずかな練習時間でしたが甲子園の土を踏ませていただき、黒土のクッションに感激した記憶がよみがえります。

初戦滋賀代表長浜北に快勝、甲子園初勝利に歓喜、2戦目岡山代表岡山東商にはくやしながら惜敗、それでもいまだかってない思い出深い夏でした。

帰路はまた上野から能代まで、あの当時の普通列車での旅だったので、何時間かかったのかよく覚えていませんが、楽しい思い出がよみがえります。

2年生時代、この年は、待望の東京オリンピック開催年度でもありました。このため秋開催の国体は6月開催、資格は東北大会優勝との条件でしたが見事クリア、新潟国体出場をはたし、愛知、東邦高校を初戦突破し渡辺節朗投手は、「フライ製造投手」との見出しでマスコミをにぎわしました。

次の福岡、博多工戦、今までに体験したことの無い豪腕橋本投手に果敢に挑みましたが、惜敗しました。

この国体経験を元に、「甲子園連続出場」との大

いなる夢実現のため、夏の予選も順調に勝ち進み、西奥羽地区大会決勝、相手は秋田工高、好投手三浦を擁し、予想通り1点を競う白熱戦となり選手はもちろん、スタンドの観衆の皆さんも異様な興奮に包まれたすさまじい決定戦でした。しかしながら絶好のスクイズチャンスに私が空振りして、残念ながら惜しくも連続出場の夢は潰えました。

監督さんははじめ、上級生、仲間のみんなには申し訳ない気持ちでいっぱいです。この無念さは一生かかろうとも償いきれない罪の重さを感じながら、ひっそりと生活しています。

私の野球人生で最大恵まれたのは、すばらしい監督さんに出会えたことだったと思います。本当にありがとうございました。

昭和42年3月卒業

第37期

昭和40年秋季～41年夏季

チーム紹介

破壊力ある中心打線

投手陣は熊谷、山田久の2人。エース熊谷は外角をつく速球を武器とし、最近めっきり自信をついている。リリーフの山田久は軟投型で、カーブが得意。ふだんは三塁を守り、打っても4番で、攻守のカナメだ。

打線は3番から6番までの大沢、山田久、柿崎、近藤らがよく当たっている。平均身長172cmと巨漢ぞろい。6番近藤は181cmとすば抜けた体格で、その破壊力はすさまじい。それに1、2番を打つ本庄、井上に当たりが出れば、得点力は倍加する。

猛練習できこえたチームだけに、守備は内外野ともよくまとまっており、今シーズンにかける先輩、父兄たちの期待も大きい。

◎昭和40年

・秋季県北

能代5-4大館鳳鳴

能代12-0合川

能代6-1花岡工

能代……大館商

(決勝戦を行わず)

・全県選抜

能代2-3本荘

◎昭和41年

・春季県北

能代4-0能代商

能代1-0花岡工

能代3-4大館商

・全県選抜

能代0-3秋田

・能代選抜

能代 4 – 1 秋田商

能代 5 – 7 秋田

・全県大会

能代 3 – 2 秋田市立

能代 4 – 0 能代工

能代 3 – 1 大曲農

能代 5 – 0 大曲

代表決定戦

能代 1 – 3 秋田

秋 田	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
能 代	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1

(秋田) 大久保一斎藤

(能代) 山田・熊谷一大沢

〈部長〉 小笠原恒太郎

〈監督〉 太田 久

〈部員〉 3年生

◎石崎(柿崎)美千雄 山田 久志

井上 道春 保坂 孝雄

大沢 勉 近藤 敏裕

本庄 正喜

僕の青春「高校野球」

大 沢 勉

合川中学校から能代高校野球部に入部したのは、中学校創立以来初めてだったと思います。そのきっかけは、前年度夏の甲子園出場を決めた秋田大会の試合実況を、ラジオの前で夢中で聞いていたからです。

その中に、エース簾内投手が居た。(簾内さんは僕にとって小さい時から近所で一緒の先輩です)その人がものすごい活躍をしている。“スゴイ”頭の中が憧れで一杯になった(後にノンプロ、日鉱日立で一緒に野球が出来た)。

僕は同じ夏、合川中学が初めて全県大会に出場し投手でした。そんな僕に太田監督さんが能代高校で野球をやらないか、と声を掛けてくださいました。“よし”簾内さんと同じ学校で、同じ投手として自分も甲子園に出場したい、甲子園はどんな所だろう、そんな思いで能代高校野球部への入部

を決意した事は今でも鮮明に記憶に残っている。

しかし、その考えは甘かった。中学校では練習にしても遊びに毛の生えた様なもの、入部した途端途轍もなくハードな練習に度肝を抜かれ、先輩達の鍛えられた身体を見て愕然とした。

毎日毎日走れ走れ、ノックの雨あられ、これだけ練習しないと甲子園に出場出来ないのか!! とんでも無いと思ったし、甲子園と言う所も心の中ですっかり霞んでしまったように記憶している。

楽しみは雨の日、その外は監督さんがグラウンドに来ない事を授業中に夢の中で祈っていたのは、僕だけだったろうか?

入学した那年は甲子園出場を引継ぎ今年もという雰囲気で熱氣むんむん、殺気だった練習でしたが、西奥羽大会優勝、新潟団体出場と本当に強いチーム、すごい先輩達ばかりでした。そんな中、1年生は練習について行けず四苦八苦、夏合宿でのファーストベースまでの100回ランニング、死にそうでした。夏のグラウンド周回ランニングでは、太陽が真黒に見えて倒れそうでした。

2年生の夏、甲子園予選、八橋球場のサードベースに山田久志君、ファーストベースに自分が居た。打球はサードへ、捕球した山田君がファーストへ高投しサヨナラゲーム!! 山田君はその事を自分で語っているが、今まで一度もファーストベースに居た僕の守備の事は話題にしない様に思う。あの緊張した場面で体が思い通り動かず、多少ボールが高くても自分が思いきりジャンプしたら捕球出来たのではないか、と今でも密かに申しわけなく思っている。

でも、その事があったから2人の新たな野球人生が太田監督さんの一言でスタートしたことは言うまでも無い。山田君は投手へ、僕は投手から捕手へどんどん返しのコンバートでした。マスクをかぶる都度、バットを振られる度に内心怖くて怖くて逃げたい思いが毎日続く事となった。

しかしながら監督さんの一言で山田君は日本プロ野球史にその名を刻む大投手になり、中日ドラゴンズの監督にも就任した。僕は捕手というポジションにも少しづつ慣れ、ノンプロ、プロと進む

事が出来た。

そんな道のりを決めて下さった太田監督さんは、いつも感謝している事は言うまでもない。山田君はじめ、能代高校硬式野球部で3年間一緒に歯を食い縛り、汗を流し、涙した先輩後輩の皆と

野球が出来た事をいつまでも誇りに思っている。

監督さんはじめ人との出会いを大切に思いつつ、ボールを一生懸命追いかける少年達を観ていると、これからもずっと青春を続けたいと思っている。



チーム紹介

熊谷の速球に威力

2年生を主体としたチーム“若さ”が心配。6月下旬から20日間もの長期合宿で技術面はもとより精神面の鍛錬に主力をそぞぎ2度目の甲子園出場をめざしてはりきっている。

投手陣は主戦の熊谷、控えには神馬、山田、佐々木、それに1年生の山本、船山と豊富。しかし、たよれるのは熊谷一人。熊谷は昨年から引き続いでの登板。春は球のキレが悪かったが、最近は得意の外角低めをつく速球に威力を増してきた。ややスタミナ不足が気があり。守備や内外野ともまとまっている。

打線はどこからでも打ってできる切れ目がないのが特徴。今シーズンは過去16試合でいずれも3点以上をたたき出しチーム打率は2割6分と好調だ。

トップの津谷は4割2分のハイアベレージをマーク、さらに下位の小林も毎試合安打を続けている。それに春は不振だった4番の三浦が最近スランプを脱し、本来の力を發揮しはじめたのは心強い。

◎昭和41年
・秋季県北
能代 3 - 5 大館商

◎昭和42年

・春季県北

能代 9 - 1 合川

能代 6 - 7 大館商

・能代選抜

能代 4 - 2 経大付

能代 3 - 1 能代工

能代 4 - 15 大館商

・全県大会

能代 13 - 0 西目農

能代 4 - 5 大曲農

能代	3	0	1	0	0	0	0	0	0	4
大曲農	0	0	0	0	2	0	0	3	X	5

(能代) 熊谷-佐藤

(秋田) 藤井-石川

（部長）小笠原恒太郎・小山一善

（監督）太田一久

（部員）3年生

◎三浦 孝一

佐藤 雅晴

戸部 金矢

熊谷 純一